

まつり囃子

「八王子祭囃子連合会・会報」第3号

平成25年(2013年)6月2日 発行/発行者 山崎英明(八王子祭囃子連合会会長)
事務局 〒193-0931 東京都八王子市台町1-17-12 大久保明彦(事務局長)

創立20周年記念号

【加盟団体】 浅川囃子連・五日市上町囃子連・犬目囃子連・大横町囃子連・片倉囃子連・上柚木囃子連・散田囃子連・東雲会・諏訪伝統芸能保存会・千木良囃子連
てんた会囃子連・中澤囃子連・並木はやし連・西三囃子連・八幡八雲神社両社囃子連・日野囃子愛好会・日野囃子保存会・本町囃子連・みつめ囃子振興会
南大沢囃子連・宮下囃子保存会・元横囃子連鼓会・鎌水囃子保存会・よすけ会

ご挨拶

八王子祭囃子連合会最高顧問 榎崎 彰男



八王子商工会議所名誉会頭
初代後援会会長

二十周年おめでとございます。

思い起こせば、そもそも八幡八雲神社の秋の例大祭において、境内にて数団体の囃子連によるお囃子の奉納が始まりであったと思います。その立案者が当時、神社青年会の会長半澤さんでした。その後、行事の成功をみて、囃子連を組織化し連合会を作りたいとの計画を持ってまいりました。もともと祭り好き、お囃子好きの私は大賛成をして、平成六年の夏に発会の運びとなりました。しかしながら、組織を作れば運営のための資金が必要となります。そこで後援会も立ち上げなければと思い、初代の後援会長となり後援会員を募ってまいりました。八王子にはやはり祭り好きが多く、現在では一五〇名を超える後援会員数になりました。そして、連合会所属の団体も「八王子まつり」に魅力を感じている他地域からの加盟も得て、二十四団体にになりました。

関東屈指の山車祭りとして、それを支えるべく囃子連、後援会員各位の今後のご活躍を心より祈念申し上げます。

ご挨拶

八王子祭囃子連合会顧問 石森 孝志



八王子市長

「八王子祭囃子連合会」創立二十周年に寄せて

八王子祭囃子連合会が創立二十周年を迎えられたことを、心からお慶び申し上げます。

連合会の皆様は、夏の風物詩の「八王子まつり」をはじめ、秋の「市民文化祭」など、様々な行事で熱気溢れる演奏をご披露いただいております。祭囃子の力強い響きが、まさに八王子を元気にするとともに、更なるまちのにぎわいに繋がっていくものと、大いに期待しております。

貴会の今後益々のご発展とご活躍を心から祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。



ご挨拶

八王子祭囃子連合会会長 山崎 英明



私ども八王子祭囃子連合会は、平成六年の真夏に八団体で発会いたしました。そのときから二十年、いまでは二十四団体、約八百名の大きな会に発展いたしました。これも偏に後援会員、協賛会員様を始め、多くの方々のお力添えの賜と感謝申し上げます。

初代半澤会長、二代西志村会長、私が三代目の会長を拝命し二十周年を迎えることができましたことは、身に余る光栄でございます。

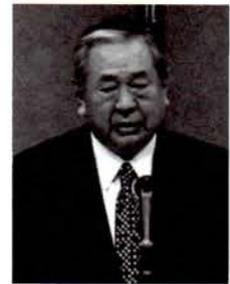
発会時には多くの先輩方や八王子市の政治・経済界の皆様からご指導を賜ったと伺っております。江戸時代より連綿と続いている関東屈指の山車祭りは八王子の誇りであり、絶やすことなく受け継いでこられた先人に深く敬意を表するものであります。会員団体には他地域からの加盟もあり、それが何より八王子の祭りに魅力があるからに他ならないと信じております。

これからも八王子祭囃子連合会は「八王子まつり」を中心とした様々な祭り、お囃子をおして地域の活性化、伝統文化の育成に努力してまいる所存です。

皆様には変わらぬご支援、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

ご挨拶

八王子祭囃子連合会後援会会長 秋間 利久



八王子市町会自治会連合会会長

八王子祭囃子連合会設立二十周年、誠におめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

八王子祭囃子連合会の皆様の活発なご活動に対し敬意を表すと共に、この場をお借りしまして厚くお礼を申し上げます。

思い起こせば二十年前、祭り以外の公共施設や一流舞台での演奏を夢見て、ごく少数団体で結成された当連合会も現在では二十四の団体が加盟する多摩地域では中心的な会として、学校や老人ホームなど活動場所も多岐に広がり、当初の目標も達成され大変意義のある会となつてまいりました。皆様方の演奏によって多くの笑顔が街中にあふれる様子を目にするに付け、祭囃子連合会の皆様方の存在は大変大きくて遅しく、誇りに思うと同時に八王子祭囃子連合会会員の皆様から来ますます発展していくと確信しております。

多くの人々によって受け継がれてきた、歴史や伝統を子ども達の手によって、未来に受け継がれていくことを切に願っております。

これからも、次の十年に向けて連合会のさらなる活躍と、会員各位のご健勝を心から祈念して、お祝いの



「八王子まつり」八幡八雲神社境内



「八王子市民文化祭」いちょうホール公演



「八王子まつり」パーク番街

言葉とさせていただきます。

ご挨拶

八王子祭囃子連合会名誉顧問 萩生田光一



衆議院議員

八王子祭囃子連合会が創立二十周年の大きな節目を迎えられました事を心よりお慶び申し上げます。

初代半澤会長はじめ、同志の皆様が市内の各神社、町会、同好会に伝わる囃子文化の発展を目指し、お互いの技術を切磋琢磨させ、祭りでも更に街を盛り上げようと呼びかけを始めたのはもう二十年以上も前になります。流派やしきたり、運営方法の違いなど課題は数多くありましたが、祭囃子を愛する魂のつながりの輪は年々広がり、今日では近隣自治体も含む二十四団体という存在感を示すに至りました。

毎年市民文化祭での「祭囃子は心のふるさと」のステージ、市外の視察研修等、研鑽を重ね、良い事例を積極的に取り入れながら夏の八王子まつりをはじめ、市内各地の様々な祭りや行事に華を添えていただいております。

山崎会長はじめ歴代の役員皆様のご労苦に敬意を表すると共に、日本文化の継承者として更に技を磨いていただき、故郷八王子を盛り立てて下さいますようご祈念申し上げお祝いの言葉といたします。

祭囃子連合会二十周年を祝う

八王子祭囃子連合会相談役 萩生田富司



元 八王子市議会議長

祭囃子連合会発足二十周年、誠におめでとうございませす。心からお慶び申し上げます。

連合会は平成六年七月夏の暑い日、八王子市立第一小学校体育館で発足したと記憶しています。以降歴代の会長、後援会長を始め、関係者のご努力で拡大が図られ、素晴らしい組織に発展されました。心から敬意を表します。

長い歴史と伝統を重ね、地域に伝承された各流派の囃子連が、一同に集い繰り広げられる「まつり囃子は心のふるさと」での共演は心に響く見事なもので、感激をもって拝観しています。

昔のお祭りが、時代の変遷から今日の関東屈指の「八王子まつり」として大きく発展され、市民に祭りの楽しさを伝えると共に、街の活性化に寄与する要として活躍している連合会に改めて敬意を表します。

この記念すべき機会を踏まえ、更なる技術の向上と組織の充実に努め、地域の絆も図られ、次の世代に誇れる祭囃子として継承されることをご祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

二十周年のお祝い

八王子祭囃子連合会後援会 近藤みつる



東京都議会議員

八王子祭囃子連合会の創立二十周年、誠にお喜ばしい事と存じます。

半澤総代が創立当初からご尽力されて現在の山崎会長まで代々の会長はじめ役員の皆様のご努力の結果、連合会が日本の文化・伝統を継承されてこられ、今日に至りました事ご同慶の至りと存じます。

日本古来の伝統であり、貴重な文化である祭囃子を大切に思い愛好していただける先輩諸氏には心から敬意を表する次第です。

日本人の誰もが愛する「お祭り」を盛り上げ神々に奉納する「おはやし」は未来永劫に守られ続けなければなりません。そのためにも、連合会の会員各位のご努力をお願い申しあげますが、「継続は力なり」と申します。

是非、会員各位のコミュニティー「絆」を深めると共に、今後益々の地域町会単位のお囃子の伝統保存会のご発展と連合会のご発展を心より願うものであります。会員各位のご健勝を心より祈念申し上げます。

八王子祭囃子連合会二十周年を迎えて

八王子祭囃子連合会総代 半澤 秀雄



初代会長

光陰矢の如し、あつという間の二十年でした。

小さい頃から祭りが好きで、特に地元の元横山町の山車の優雅で荘厳、彫刻の繊細なところが大好きです。なかでも、櫂の一枚板からなる龍の彫刻は囃子連の誇りです。そんな山車の上で太鼓を叩きたく、二十三歳のときに元横囃子連鼓会を立ち上げました。そのことと同時に八幡神社の祭礼も受けるようになりました。当時の神社の祭礼は寂れていて、仲間の親類縁者がちらほらと見に来るぐらいのものでした。現在のように大勢の人が集まるとは想像もできませんでした。

四十一歳の時に、神社を盛り上げようと、氏子二十六か町の青年達に声をかけ、八幡八雲神社青年会を立ち上げました。発会時にはなんと、六〇〇人以上の若人が集まりました。そして神社行事のひとつとして、流派を問わず各囃子連に声をかけ「お囃子共演」を実現させました。評判もよく大盛況でしたが、この「お囃子共演」が切っ掛けとなり、平成六年七月三日八王子市立第一小学校の体育館で「八王子祭囃子連合会」を発会させることができました。非常に暑い日で、

汗だくのなかで行われたことは、いまでも鮮明に憶えています。

発会と同時に八王子市文化連盟にも加盟いたしました。その理由は、「八王子まつり」以外で大きなステージでお囃子を聞いて、見て欲しかったからです。いまでは毎年秋の「市民文化祭」に参加、出演しています。連合会もお陰さまで二十四団体、八〇〇名以上の大きな会になりました。ここまでこられたことは、会員の皆様、後援会の皆様のお力添えの賜と心よりお礼申し上げます。

私の好きな言葉のなかに「適材適所」「日々是好日」という言葉があります。これからも自分の得意な面を活かして会のための尽くしていきたいと思っております。そして、一回り大きな会を目指し、より頑張ってくださいますので会員の皆様、気合いを入れて頑張ってくださいませよう。

八王子祭囃子連合会に加盟して

●五日市上町囃子連

連合会とのご縁は、平成二十二年の夏、八王子三崎町とある小料理屋のおかみさんの一言からはじまりました。ある人からある人へ話が伝わり、そしてある方から半澤総代を紹介して頂き、八月八日八王子まつり最終日に、お忙しい時間帯にもかかわらず八幡八雲神社の境内に設置された連合会本部で、半澤総代、西志村副総代(当時会長)そして大久保事務局長のお三方とお話しをさせて頂いたのが連合会との出会いでした。

私どもは、あきる野市五日市に鎮座する阿伎留神社の祭礼に、祭囃子を奉納することを目的として発足した団体として

責任を果たしていくことはこれからも変わりありません。しかし他団体との交流を通じてたくさんの方々や接し、敏感に時代の流れを感じ取って活動することは、結果として自分たちの祭囃子を継承していくチカラになると考えております。

あの時お話し頂いた八王子祭囃子連合会の理念もまさに同じであり、積極的に市外の団体を受け入れることにより拡大した組織力が、結果として地域の活性、文化継承のチカラになるという考え方に共感し、感銘を受けました。

そしてその年に開催された八王子市民文化祭「祭囃子はこころのふるさと」いちょうホール公演」にゲストとして出演させて頂いたのをきっかけに、八王子祭囃子連合会に加盟しようとして決断しました。

思ったとおり連合会の活動や加盟団体の皆様から、たくさん刺激を受け、自分たちが変化していることを実感しています。変化させずに未来に伝えるべき祭囃子を、自分たちが変化しながら伝えていかなければならないこのギャップに、期待と不安を感じて、さらに進化していくであろう八王子祭囃子連合会に、加盟して良かったのか、悪かったのか、一〇〇年後に結果をだしてやろうと一生懸命走り続けている最中です。

●大横町囃子連

大横町囃子連の連合会加入のきっかけは、自分達以外のお囃子を聞いてみたくなり、当時は既に連合会の存在があったのでそこに加入すればより多くのお囃子が聞けると思ったのがきっかけでした。

実際に連合会に入り演奏会や祭りを通じて他会他流派の囃子に触れる事ができ、そこで見た事を自分達の囃子の技術向上に生かせるようになりました。

また連合会加入により、他団体との交流が増え、祭りだけでは無い交流や親睦も幅広く行えるようになってきました。今後も連合会を通じ交流や親睦を深め八王子の囃子全体を

盛り上げていけるように頑張っていきたいと思ひます。

● てんた會囃子連

我々「てんた會囃子連」は、八月の八王子まつりの活動を中心に年間を通して地域の祭礼等に参加させて頂いておりま

す。これもひとえに後援会を始め、協賛会員の皆様、一般会員の皆様の御協力を得ての活動と思っております。

連合会発会から参加させて頂いております我々の会は、八王子の中では数少ない「浜の手流」という流派を継承しております。

他団体とは流派は違いますが、そんな中でも連合会を通して交流を深め、同じ祭好きな仲間が集まって、ひとつの目標・目的に向かっていく事は大変素晴らしい事だと思ひます。

また、連合会の中で縁あって「人生の供」となった人達もおります。

そうした同じ意識、考えを持った人達が集まって一緒にお祭りを盛り上げよう、お囃子を通して若者や子供達に健全な育成をしていこう、良き伝統を継承していこうと皆で協力し助け合いながら活動する連合会もいよいよ二十周年を迎えま

した。我々「てんた會囃子連」も、そんな素晴らしい連合会と供にこれからの稽古に精進していきたいと思ひます。

● 並木はやし連

我が並木はやし連は先代まで、地元重視の囃子活動をして

おりました。近年若手が増え、先代より今の並木を引き継ぎ、半纏を新調し「自分たちの半纏で八王子まつりに参加したい」・「一年を通し囃子活動をしていきたい」という目標を持った矢先、縁あって八王子祭囃子連合会の仲間に加えていただきまし

た。

先代からは、まだ加盟は早すぎる等々、色々な意見があり、最終的には先代が折れ、半ば若手が強引に加盟をしてしまったのかもしれない。ただ、加盟したことにより他の会との交流はもちろん、立てた目標は一つひとつ実現されており、囃子を通して様々な方に出会い、また活動の場をいただいたことは、我が会にとって非常にプラスになっています。

● 日野囃子愛好会

八王子祭囃子連合会結成二十周年を迎え、誠におめでとうございませう。

八王子まつりは五十年以上の歴史があり、祭りには絢爛豪華な山車に乗り、日本の素晴らしい伝統芸能の祭囃子で地域の人々に喜んでいただけるように練習に励み、永く伝統を守り伝え、加盟連合会の親睦の輪がさらに大きく広がることを期待、努力していきたいと思ひます。

また、私たちの囃子も大勢の人たちに喜んでいただけるよう稽古に励み、これからも八王子まつりに参加させていただけるよう、努力してまいりますので、皆様のご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

● 元横囃子連鼓会

八王子祭囃子連合会発会二十周年、謹んでお慶び申し上げます。

思い返せば、あの蒸し風呂のような暑さの第一小学校の体育館で発会式を迎えた事が、つい先日のように思えてしまいます。

発会当初数団体だった連合会も、今や団体。同じ趣味を持った仲間達が流派は違えど一つの目標に向かって共に歩んで行く、こんな魅力的な連合会に参加出来た事をとても誇りに思

います。

また六年前、役員さん中心で建造した完成度の高い「山車」には度肝を抜かされました。私共元横囃子連鼓会のメンバーもあの山車で囃子を演奏させて頂きましたが、あのスケールの大きさには感動致しました。

今年もあと数カ月で八王子まつりが開催されますが、やはり八王子祭囃子連合会の醍醐味とは、違う半纏を着ている者同志も気軽に挨拶し合えるという所だと思っております。

二十周年は百年、二百年に至るまでの通過点。私共元横囃子連鼓会もこれからも変わらず八王子祭囃子連合会に協力して参る所存でございませうので、今後ともご愛顧のほど宜しくお願い申し上げます。



● 鍮水囃子保存会

当会が八王子祭囃子連合会に加入したのは、平成六年四月一日と考えられる。それは同日八雲会館で発起人会が開催され、鍮水は発起人ではなかったものの、参加を促され参加した。連合会設立原案プリントに、当時の会長(小泉 茂)のメモ書きがあることから、同日入会したと確信したものです。

鍮水囃子連では人材不足に悩んでおり、子ども囃子の育成を図ることに因み、発表する機会を得られればよいと思つたのが主な理由です。その後、子ども囃子も徐々に盛会に転じたので、老連は保存会と改名し、伝統囃子の保存と後輩の指導に力を入れることにした次第です。

「八王子まつり」にも参加できたことにより、一段の技術の向上と、祭囃子に興味を示す子ども達が増えたことは、この上ない大きな喜びです。今後の八王子祭囃子連合会の発展と活躍を望んでおります。

会員寄稿

私と祭りばやし

南大沢囃子連 谷合徳行

私が十七歳の頃、お囃子の練習が公会堂であると聞き参加した。約一〇名、稲わらを硬く紐で巻いた、代用の練習太鼓でした。始まると「ほこり」が舞い上がった思い出がある。先輩に率先して練習に励んだ。途中で退会者もあり、五名が連中に加入できた。一時中断の時期もあったが、昔からの「南大沢ばやし」であるので残さなければの一心であった。篠笛が乏しく、同じ流派のある町田市に夜分一生懸命習いに行き修得した。この時代は各地には囃子連が少なく、頼まれて演奏に行った。大和田町、元横山町、神奈川の大口などに出向いた。小学生の踊り手が大変喜ばれた。また、大口地区では泊まりがけで「朝ばやし」の要望があった。午前五時頃の一曲で、早朝に起きるのが辛かった思い出がある。反面、飲食などの待遇が良く、昔語りである。

南大沢囃子連は、大正時代初期の神田ばやし(山の手流)の流れを汲む囃子です。平成六年七月に猛暑の中、第一小学校体育館で「八王子祭囃子連合会」が十八団体で三つの目的を掲げ発足した。

平成十五年には女子大学生三名の入会があり活気が出た。「八王子まつり」には毎年参加、子ども達にとって祭りの伝統文化の体験が身にしみて感動しているものと確信している。

また「伝統文化こども教室」を開催した。平成十六年十月より一年間、十三回で二〇名、十九年七月より一年間十三回二〇〇名、計二回開き「南大沢ばやし」の太鼓・篠笛・舞



イ面」もあるようで、頼もしい連中の発展を期待している。

など実技の伝承、体験・習得などで関心や理解を深め、地域住民との交流活性化にも貢献することができた。昨今は新会長のもとで、約二十名の子も達が目標を定め、週一回練習に励んでいる。したがって、篠笛も五本、太鼓・狐・獅子舞も上達している。また「マ

千木良牛鞍神社祭礼紹介

千木良囃子連

八月二十六日に近い土曜・日曜、神奈川県相模原市緑区(旧相模湖町)千木良牛鞍神社で二台の山車が曳かれ、深夜近くまで賑わう、千木良牛鞍神社祭礼である。

「目黒囃子」と「大戸囃子」の異なる流儀を、各々の山車にて演奏する山車祭りである。

本町二丁目の糸屋の娘、姉は二十一なうい・く本宮・六時前、山車の会・通称「ぼの会」の若衆の「木遣」によって祭りが始まる。数百メートルの参道を抜けると第一の見せ場、山車の「キリン回し」である。通常、山車の方向転換は、舵により行われるのが通例であるが、此処は台車の中心に「キリン」といわれる台を乗せ回転する。

くならよくおいせくのくねく「ぼの会」の若衆が山車後方に就き一気に肩を上げると山車は前のめり状態、すかさず台車内で待機している係がキリンを設置、山車は回転する。囃子方は座敷からずり落ちないように体を支えながらの演奏で

必死である。

七時過ぎ、御旅所で待つている山車(大戸囃子演奏)の囃子方に「目黒囃子」が聞こえてくる、神社より巡行の山車が御旅所に到着すると第二の見せ場「市ヶ谷戸(いちげ)」のぶっつけが始まる。双方の山車は、高張り提灯が接触するほどに接近、紙ふぶきの舞う中、囃子方も最高潮、特に大戸囃子は特異な調子に変わり観客を沸かせる。

八時、街道の軒提灯の灯る間を、二台の山車は「お祭り広場」に到着する。賑やかなお囃子の競演が終わると、観客は方向転換、広場前数十メートル前では祭り最大の見せ場打ち上げ花火が始まる。打ち上げ場所が近く、また回りが山に囲まれているため花火は迫力満点頭上から降ってくるカスをよけながらの花火観戦は必見である。

十時、双方の屋台はそろって神社参道に到着、此処からは一台ずつの宮入である。一台目(目黒囃子)山車は静かに宮入を終わり、残る一台の宮入を待つ。残り一台が参道に入るや否や「ぼの会」の若衆は一変、

早く宮入させたい者と、祭りを終わらせたくない者の双方にわかれてのしぎあいが始まる。

二台目が神社に近づく頃、泥酔と喧嘩で半纏が泥だらけ、時間は十二時を過ぎる。

延々六時間に及ぶ長い山車巡行は終わりを迎える。神社近くでは、祭りの余韻を語り合う若者たちの声が早朝まで聞こえている。

―追記―

毎年、牛鞍神社祭礼に友情応援をいただいている連合会の皆様に厚く感謝いたします。尚、今年の日程は八月二十四・二十五日となっております。今年も宜しくお願いいたします。

